

ホケンダイつきいちゼミ(2025年6月号)



Q1.研究テーマを教えてください。



A1.国内外の地域の健康・栄養課題とその解決に向けた取り組みに関する研究及び栄養転換期にある途上国支援に関する研究を行っています。



Q2.お名前と今の仕事の内容を教えてください。



A2. 三好美紀 教授

【学部】健康科学部栄養学科

グローバルヘルスプログラム・リーダー

【大学院】健康科学研究科 国際地域栄養研究室



ホケンダイつきいちゼミ(2025年6月号)



Q3. 研究室名とリーダーの先生を教えてください。



A3. 国際地域栄養研究室で、リーダーは三好です。

詳しくは下記URL研究室紹介をご覧ください。

https://www.auhw.ac.jp/daigakuin/health/global_community_nutrition.html



Q4. どうしてその研究をしようと思ったのですか。



A4. 当研究室では、大学院生がそれぞれ国内外のフィールドで研究テーマに取り組んでいます。途上国支援に係る研究として、青年海外協力隊(現・JICA海外協力隊)栄養士隊員としてグアテマラ、マラウイで行った活動経験及びラオス農村部における地域母子保健改善プロジェクトの経験をふまえて研究テーマを設定して現地調査を実施した研究を紹介したいと思います。

※ラオスで実施された博士研究については次号「ホケンダイつきいちゼミ」をご参照ください

ホケンダイつきいちゼミ(2025年6月号)



Q5.それはどんな研究ですか。



A5.グアテマラでは農村部の3～5歳児の身体測定及び母親への聞き取り調査を行うことにより幼児の栄養状態と背景因子との関連を検討すること、マラウイでは農村部と都市部の小児肥満及び非感染性疾患(NCDs)に関連する食事摂取の実態及び要因を明らかにすることを目的として行われた修士研究です。



Q6.どんな成果が得られていますか。



A6. グアテマラでは対象幼児の栄養状態が全体的に悪く、母親への栄養教育の必要性が示唆されました。マラウイでは農村部と都市部で子どもの低栄養と肥満及び母親の肥満の分布とその要因としての食事摂取に異なる特徴があることが明らかになりました。



母親への聞き取り調査の様子(グアテマラ)

ホケンダイつきいちゼミ(2025年6月号)



Q7.この結果をどんな人にどのように活用したいですか。



A7.グアテマラでは対象地域の母子の栄養改善、マラウイでは栄養・NCDs施策への提言を目指して研究成果をスペイン語／英語論文として発表するとともに、国レベルの政策提言につなげる基礎資料として現地協力者に活用いただきます。



Q8.皆さんにメッセージをお願いします。



A8.大学院生は青森県内、そして県外(東京・大阪、他)からも集まっています。全員社会人の学生で、忙しい中でもそれぞれの問題意識をモチベーションとして研究につなげています。院生同士の意見交換を重視しており、国内外を問わず地域住民の未来の「健康」「食」につながる支援を探求していきます。

ホケンダイつきいちゼミ(2025年6月号)



最後に、研究のことをもっと知りたい！大学院のことをもっと知りたい！場合は、どちらにコンタクトすればいいですか？



国際地域栄養研究室 三好美紀

メールアドレス:m_miyoshi@ms.auhw.ac.jp
よろしくお願いします！



三好先生、ありがとうございました。
保健大学では、毎月、その年のテーマに沿って、
情報を発信していきます！！